

メキシコ政治情勢（6月）

〔概要〕

【内政】

- 1日、エル・フィナンシエロ紙が、大統領支持率等に係る世論調査結果を発表。ロペス・オブラドール大統領の支持率は、57%で前月比1%増。
- 5日、6州で知事選挙が開催。4州で与党連合候補、2州で野党連合候補が当選。
- 8日、野党連合各党首、今会期での与党の憲法改正の取組を全て阻止する旨発表。
- 12日、国家再生運動(MORENA)、2024年大統領選挙に向けた集会を実施。
- 18日、「ロ」政権において、歴代政権最多の殺人件数が記録された。
- 20日、チワワ州で、犯罪組織によりイエズス会神父2名が殺害された。

【外交】

- 8日、北朝鮮制裁強化のための新安保理決議案に係る国連総会討論が開催。
- 8～10日、エブラル外相が、ロサンゼルスで開催された米州首脳会議に出席。墨米加外相共同宣言が発出された他、墨政府が各種コミットメントを発表。
- 14日、ケリー米国気候変動特使が訪墨。
- 17日、「ロ」大統領、エネルギーと気候に関する主要経済国フォーラムに参加。
- 20日、「ロ」大統領、コロンビア大統領選挙で当選したペトロ候補に祝意を表明。
- 28日、テキサス州で、越境トラックから53名の非正規移民の遺体が発見された。
- 29日、墨国際協力開発庁と韓国大使館が宇宙開発に係る会合を開催。

【内政】

1 各紙世論調査結果

(1) 1日、エル・フィナンシエロ紙が、大統領支持率等に係る世論調査結果を発表。「ロ」大統領の支持率は57%で前月比1%増。不支持率は41%で前月比1%減。(5月6～7日及び27～29日に、全国の有権者計1,000名を対象に電話で調査を実施。誤差±3.1%。)

ア 「ロ」大統領の取組を支持するか。

- ・支持する：57%（前回（4月、以下同じ）56%）
- ・支持しない：41%（前回42%）

イ 以下の事項につき賛成か、反対か。

①墨政府がキューバ人医師を雇用すること

- ・賛成：47%
- ・反対：47%

②政府が、犯罪組織の構成員も人間であるとして彼らを保護すること

- ・賛成：16%
- ・反対：82%

ウ 「ロ」大統領は、米国がキューバ、ベネズエラ及びニカラグアを米州首脳会議に招待しない場合、自分も出席しない旨述べた。右は「ロ」大統領の正しい判断か、誤った判断か。

- ・正しい：34%
- ・誤っている：53%

エ 以下の国々のうち、メキシコはいずれの国々とより緊密な関係を持つべきか。

- ・米国及びカナダ：63%
- ・キューバ、ベネズエラ及びニカラグア：14%

オ 各分野における「ロ」政権の取組を如何に評価するか。

①ワクチン接種

- ・とても良い、又は良い：73%（前回70%）
- ・とても悪い、又は悪い：18%（前回17%）

②経済

- ・とても良い、又は良い：41%（前回39%）
- ・とても悪い、又は悪い：44%（前回42%）

③治安対策

- ・とても良い、又は良い：25%（前回22%）
- ・とても悪い、又は悪い：61%（前回63%）

④汚職対策

- ・とても良い、又は良い：34%（前回33%）
- ・とても悪い、又は悪い：52%（前回49%）

カ 総じて、メキシコは良い道を辿っていると思うか、悪い道を辿っていると思うか。

- ・良い道を辿っている：39%（前回（3月、以下同じ）30%）
- ・悪い道を辿っている：38%（前回37%）

キ メキシコが現在抱える主要課題はいずれか。

- ・治安の悪さ：47%（前回（4月、以下同じ）46%）
- ・経済、失業：27%（前回25%）
- ・新型コロナウイルス、保健：4%（前回6%）

(2) 20日付エル・フィナンシエロ紙は、2024年メキシコ市長選挙に向けた世論調査結果を発表。政党毎での投票意思は、国家再生運動（MORENA）が36%、国民行動党（PAN）が20%、制度的革命党（PRI）が19%であったが、連合毎では、与党連合（MORENA、緑の党（PVEM）、労働党（PT））が42%、野党連合（PAN、PRI、民主革命党（PRD））が44%であった。

(3) 22日付エル・フィナンシエロ紙は、2023年メキシコ州及びコアウイラ州知事選挙に向けた世論調査結果を発表。メキシコ州では、政党毎での投票意思はMORENAが40%、PRIが19%、PANが15%で、連合毎では、与党連合が46%、野党連合が38%であった。コアウイラ州では、政党毎ではMORENAが39%、PRIが27%、PANが14%で、連合毎では、与党連合が46%、野党連合が44%であった。

(4) 27日付エル・フィナンシエロ紙は、2024年大統領選挙に向けた世論調査結果を発表。政党毎での投票意思は、MORENAが43%、PRI及びPANが各々17%。連合毎では、与党連合が48%(前回45%)、野党連合が38%(前回40%)であった。同選挙でMORENAの候補になってほしい者はとの質問に対しては、回答者全体では、エブラル外相が24%、シェインバウム・メキシコ市長が21%で、MORENA支持者では、「エ」外相が37%、「シェ」市長が29%の回答結果であった。

2 6州知事選

5日、6州で州知事選挙が開催された。結果は、イダルゴ州、オアハカ州、キンタナ・ロー州、及びタマウリパス州で与党連合候補が、アグアスカリエンテス州及びドゥランゴ州で野党連合候補が当選した。今次選挙の結果、全国32州中22州の知事が与党系知事(うち20州の知事がMORENAの知事)となった(次期知事の就任は州毎に異なり、9月~12月)。国家選挙機構(INE)は、特段の騒擾はなく選挙が実施された旨発表した。

3 野党連合各党首、今会期での与党の憲法改正の取組を全て阻止する旨発表

8日、野党連合「Va por México」(PAN、PRI、PRD)の3党首は、連邦議会の残りの会期(2024年8月末まで)において、与党による如何なる憲法改正の取組にも賛成票を投じない旨の連合としての決定を発表した(憲法改正には、出席議員の3分の2以上の賛成票が必要で、与党系議員は、今会期において上下両院いずれにおいても、3分の2以上の議席を確保していない)。

4 MORENAの2024年大統領選挙に向けた党集会

12日、MORENAは、明年州知事選挙が行われるメキシコ州の州都トルーカ市において、2024年大統領選挙に向けた党集会を開催。デルガド党首は、MORENAの大統領候補を決定する全国民への世論調査を約1年後に開催する旨発表した。同集会には、「ロ」大統領がMORENAの大統領候補になり得ると既に言及している「エ」外相、「シェ」メキシコ市長、及びロペス内相が参加。同じく大統領選への立候

補を表明しているモンREAL上院政策調整委員長は招待されず、このような集会は、違法な（キャンペーン期間前からの）選挙キャンペーンにあたりと指摘した。

5 「ロ」政権において歴代最多の殺人件数が記録

18日、国立統計地理情報院（INEGI）は、「ロ」政権の3年6か月間において、12万1,655件の殺人件数が記録されたとして（政府発表）、これは、犯罪組織との全面対決を発表したカルデロン政権期よりも多い、歴代政権最多件数に到達した旨を発表した。なお、「ロ」政権での12万1,655件の殺人件数のうち、女性殺人は3,463件と発表されている。

6 イエズス会神父2名の殺害

20日、チワワ州セロカウイ市で、犯罪組織に追われて教会に逃げ込んだ市民とともにイエズス会神父2名が殺害され、遺体が持ち去られた。「ロ」大統領は、本件につき、ローマ法王も暴力で暴力に対処すべきでない旨述べたとし、治安戦略を変更する意向はない旨述べた。また、このような事件は、カルデロン政権期からの負の遺産であると述べた。

【外交】

1 北朝鮮制裁強化のための新安保理決議案に係る国連総会討論

8日、デ・ラ・フエンテ墨国連常駐代表が、北朝鮮制裁強化のための新安保理決議案に対する拒否権行使に係る国連総会討論において発言。メキシコは、北朝鮮の最大限の自制を求め、朝鮮半島の完全かつ検証可能で不可逆的な非核化につながる北朝鮮との多国間対話の必要性を強く主張する旨述べた。また、安保理での北朝鮮に係る決議案に対する中露による拒否権の行使を非難し、安保理での拒否権行使に歯止めをかけることを呼びかけ、大規模な残虐行為があった場合に拒否権を自主的に制限するための、墨仏によるイニシアチブへの支持を呼びかけた。

2 米州首脳会議へのエブラル外相の参加

8日、ロサンゼルスで開催された第9回米州首脳会議の閣僚級会合（開会セッション）に「エ」外相が参加し、現在、米州諸国間の関係を定めているモデルの再構築を提案した。また、米州首脳会議からメンバー国を排除するのは戦略的な誤りである旨、現在も米州の国々に対する封鎖、禁輸、及び制裁が続いており、国際法および米州を活性化する目的に反していることは信じがたい旨を述べた。

3 墨米加外相共同宣言の発出

10日、米州首脳会議の機会に、「エ」墨外相、ブリンケン米国務長官、及びジョリー加グローバル問題担当大臣が共同宣言を発出。新型コロナウイルス感染症のパンデミックを終焉させ、公平な成長のための条件を創出し、北米の競争力を強化するために協働する旨が記載された。また、ウクライナの独立、主権、及び領土一体性への支持が再確認され、ロシアが国際法に違反して主権を有する民主主義国家である隣国に侵攻したことを非難し、ロシアに対し、ウクライナの国際的に認められた国境内にある全ての軍事力及び装備を直ちに撤退させ、対話と外交の道に戻るよう呼びかけた。また、性的少数派、アフリカ系コミュニティ、及び先住民の権利の保護、個人の表現の自由及びメディアの自由の保護、気候危機、非正規移民及び貧困の根本原因への対処等のコミットメントを確認した。

4 米州首脳会議を受けた墨政府の各種発表

10日、墨政府は、米州首脳会議の枠組で採択された「移民と保護に関するロサンゼルス宣言」を強化する、労働移動、難民保護制度、及び脆弱な集団の保護のための一連の補完的措置を発表。グアテマラからメキシコへの移民を年間1万5,000～2万人受け入れ、中期的にはホンジュラスやエルサルバドルからの人々にも拡大する、国境労働者訪問者カード（TVTF）に基づくプログラムを拡大する、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）等の国連機関と連携し、3年間で2万人の再定住・統合難民の雇用機会を推進する等の墨政府のコミットメント、及び墨米間での2つの新二国間作業部会（査証プログラム及び米国で働くメキシコ人の労働に係る権利の擁護を強化する了解覚書への署名を目指すもの、及び両国で移動する未成年の権利を保護するための新たな施策の立案及び実施に取り組むもの）の設置合意が発表された。また、同日、「エ」外相は、ロサンゼルス系のメキシコ系アメリカ人コミュニティの3,000人の若者を対象とした研修プロジェクトである「未来をつくる」を発表した。

5 ケリー米国気候変動特使の訪墨

14日、「ケ」米国気候変動特使が訪墨し、サラサール駐墨米大使とともに、「ロ」大統領、「エ」外相他と会談。会談後「ケ」特使は、記者団に対し、墨政府がクリーン・エネルギー経済への転換を加速するために民間投資を歓迎する旨、及び「ロ」大統領が直近数週間、複数の米国エネルギー企業と会談を行い、これらの企業の懸念を聴取していた旨述べた。

6 「ロ」大統領のエネルギーと気候に関する主要経済国フォーラム参加

17日、「ロ」大統領は、エネルギーと気候に関する主要経済国フォーラムにオンライン参加。気候変動との闘いのために実施する10のアクション（水力発電所の近代化、石油採掘におけるメタンガスの減少への投資、排気ガス非排出車の新車販売割合

を50%にすること、ソーラーパークの操業開始、米国企業17社とのクリーン・エネルギーへの投資合意、製油所の近代化、植林事業の継続等)を公表し、2024年までに消費エネルギーの35%をクリーンかつ再生可能エネルギーとするコミットメントを維持する旨述べた。

7 ペトロ次期コロンビア大統領候補への当選祝意表明

20日、「ペ」次期コロンビア大統領候補の当選に関し、「ロ」大統領が定例早朝記者会見において祝意表明を行った。ラ米カリブ地域に保守主義が再来していたが、自身が政権に就いて以来、新たな時代が始まり、重要な勝利が到来し始めたとし、進歩的運動が進展するため、同選挙結果を嬉しく思っていると述べた。また、バイデン米大統領の当選時には祝意表明が遅れたのに今回なぜ斯様に早く祝意表明を行ったのかとのメディア等から自身への批判に対し、「バ」大統領の時は正式な結果が未発表で票の数え直しが行われていたのに対し、コロンビアでは、ドゥケ現大統領等が(「ペ」候補に)既に祝意表明を行っていたため、状況が異なると述べた。

8 非正規移民53名の遺体が発見

28日、テキサス州サンアントニオで、非正規移民を乗せてメキシコから越境し放置されていたトラックから、メキシコ及び中南米諸国からの非正規移民53名の遺体が発見された。「ロ」大統領は、7月12日に予定されている自身の訪米時、「バ」大統領との会談で移民問題を中心事項として扱う予定である旨発表した。

9 墨国際協力開発庁と韓国大使館が宇宙開発に係る会合を開催

29日、墨国際協力開発庁(AMEXCID)は、在メキシコ韓国大使館及び墨宇宙庁(AEM)とともに、韓国航空宇宙研究院(KARI)及びラ米カリブ宇宙機関(ALCE)との共同作業会合を開催した。同会合では、宇宙開発における協働の可能性を模索すべく、韓墨両国の宇宙関連特許技術、国際協力の取組及び宇宙開発計画が紹介された。

(了)